

2023.4.18

Salone del Mobile.Milano 2023 出展社・新作情報

Salone del Mobile.Milano/ ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)に足を運ぶということは、**革新性、品質、実用的な機能**だけでなく、**美的価値やコミュニケーション能力**を求めるといことです。モノは、世界のあり方、生き方、時代を象徴するものです。したがって、その年の“トレンド”について語ることは、(関係者は敬遠する言葉であると同時に、今や人気を誇る言葉) 実に矛盾したことになります。なぜなら、家具は長い間私たちと一緒に暮らし、私たちを象徴する空間に変えてくれるからです。つまり、私たちがミラノサローネで目にするものは、ほとんど**無限の多様な声と解釈、驚き、個性的でクリエイティブなストーリーのある解決策**に満ちており、一過性のものではないのです。

一方、時は流れ、社会は進化し、イノベーションはもはやスタンダードになりました。なので今回も、この2020年代を貫くデザインの“**ル・フィル・ルージュ**”を構成する**ビジョンやコンセプト、提案**を把握することができ、少し注意を払うことで、何が時代を超えて残り、何が時代遅れになるかを推測することができます。

美的・機能的を超えて、2023年のキーワードは2つ、「**幸福**」と「**持続可能性**」です。素材の原産地、生産方法、耐久性、モノの寿命に注意を払い、そして言うまでもなく手入れを怠らず大切に扱うことで、デザインは「自分も、他人も、地球も大切にしよう」という明確なメッセージを発信しています。そして、美と健康、時代が本当に必要としている平穏な感覚を維持することにコミットするのです。

【クロモセラピー(カラーセラピー)】

セラピーと呼ぶに相応しく、今年のリーディングカラーは、穏やかで落ち着きを感じさせる優しいトーンです。**軽くて明るく、温かみのあるニュアンス**で、私たちを取り巻く自然を思い起こさせる色 - **大地の黄土色、クリーム色、アイボリー、トープ、グレー、キャメル、テラコッタ、ウッド、マスタードイエロー、フォレストグリーン、エメラルド、セージ、ボルボラ(赤紫)、ピンクのグラデーション、海のターコイズ**などです。

このインスピレーションは、70年代や90年代を思わせる洗練された**飽和色**のセンスと相まって、**紫、イエロー、レッド、グリーン、ブルー**など、かなり大胆な組み合わせも可能になっています。また、**ウルトラマリン、ピーコック、コーンフラワー**と言ったブルーの色調を際立たせる**ゴールド**も登場します。

● ALPI (アルピ) /「Raggiosole (ラジヨソレ)」ホール4 | スタンド M12

豊富になったカラーパレットの一例として、ALPI の新しい木材である「Raggiosole」が挙げられます。**Konstantin Grcic(コンスタンチン・グルチッチ)**とのコラボレーションにより、あるトーンを他のトーンにブレンドする可能性に着目し、遠目にはぼかし、一方ではほ

ぼ自然の木目のような錯覚を与える効果を実現しました。デザイナーは 1960 年代の、ラッカー塗装で“サンバースト”効果を出したギターにインスパイアされ、レッドオレンジからアイボリー、ブラック、そしてまたアイボリー、レッドオレンジといったニュアンスを表現しています。

- **Antoniolupi (アントニオルーピ) /「Albume (アルブーメ)」** ホール 2 | スタンド B23-B25
Carlo Colombo (カルロ・コロombo)の洗面台「Albume」を再編集するために **Antoniolupi** が選んだ**紫色のカラカッタ大理石**の特徴は、紫色の唐草模様で、背景の白とのコントラストが強く、ピンクやグリーンに変化し、金色がちらちらと見えます。
- **Cattelan (カッテラン) /Pietre (ピエトレ)」「Terre (テッレ)」「Camilla (カミツラ)」** ホール 10 | スタンド A15-B18
また、カッテランは、ロックやダスティなアースカラーを思わせるニュートラルで繊細なニュアンスを展開。Andrea Palladio (アンドレア・パラディオ)と Antonio Canova (アントニオ・カノーヴァ)が使用した素材からインスパイアされた **Pietre (石)** コレクションや、温かみある居心地の良い色合いの **Terre (土)** シリーズを、新しいレザーが包みます。**Luca Signoretti (ルカ・シニョレッティ)**の「Camilla (カミツラ)」をはじめ、同ブランドのシートはこれらのレザーで覆われています。
- **Kartell (カルテル) /「Eleganza Missoni (エレガンツァ・ミッソーニ)」** ホール 2 | スタンド A11-B16 A21-B18
Philippe Starck (フィリップ・スタルク)が手がけたシーティングコレクション **Eleganza Missoni** は、彩度の高い色彩に焦点を当てています。ジャカード生地は、ファッションブランド特有の強い幾何学模様と強いニュアンスを保ちながら、シートに緑の魂を吹き込んでいます。実はこの構造は、昨年発表したイリーカフェのカプセル・リサイクルシステムで作られています。

【ネイチャー:デザインの素材】

コットン、ベルベット、ウール、ジュートなどのファブリックをはじめ、木、石、大理石、そして紙など、2023年の素材の主役は「自然」です。完璧ではない、ほとんどラフなテクスチャーを特徴とする素材は、プリミティブで触覚的な美学を高め、ある種の超構造化によって家具の表面に対照的な脈絡、質感、パターンをもたらしています。

- **Poliform (ポリフォルム) /「Neolith (ネオリス)」** ホール 5 | スタンド A03-A05 B02-B10
外側の面は粗く、内側の面は滑らかなドルメン石が、Neolith テーブルにインスピレーションを与えています。大理石、木、溶岩でできた天板のきめ細かさは、コントラストを生み出し、それぞれの脚の記念碑的な性格を強調します。その丸みは、視覚的に柔らかさを与えます。
- **More (モア) /「Avar (アヴァール)」** ホール 10 | スタンド C23

山々の壮大な風景に似ている：Avar テーブルは、無垢材の天板を支えるためにダブル A を採用しています。大理石の脚の構造は、山脈の岩盤の重なりを連想させます。

- **Lithea (リテア) / 「Dal Classico (ダル・クラッシコ)」** ホール 10 | スタンド B08
シチリアの Lithea 社の Dal Classico にも大理石と天然石が使われています。Astrid Luglio (アストリッド・ルリオ)、Elena Salmistraro (エレナ・サルミストラロ)、Mario Scairato (マリオ・スカリアート)、Martinelli Venezia (マルティネッリ・ヴェネツィア) の解釈で地中海の探求を続けています。クラシカルな文化にインスパイアされ、さまざまな天然素材を組み合わせ、明暗のコントラストや洗練されたカラーパレットで、ハイパーデコラティブまたはミニマルな美学を表現したサーフェスとアクセサリーの最新コレクションを発表しています。
- **Laminam (ラミナム) / 「Diamond (ダイヤモンド) コレクション」** ホール 2 | スタンド G12-G20
天然石をイメージした新しいコレクション、Calacatta Black (カルカッタ・ブラック)、Cristallo Macchia Vecchia (クリスタッロ・マッキア・ヴェッキア)、Onice Grigio (オニチェ・グリージョ)、Cristallo Gold (クリスタッロ・ゴールド) を発表。また、エウロルーチェの開催年であるこの機会に、石英粉をベースにした特殊な配合により、表面を光で反響させるスターリット・ポリッシュ仕上げのスラブで、照明を表現しています。
- **Gervasoni (ジェルヴァゾーニ) / 「Kasane (カサネ)」** ホール 5 | スタンド D11-E12
Nendo によるテーブルとプフのコレクションは、粘土を使いさまざまな要素が重なり合い、接合部の工夫によって彫刻のように仕上がっています。カップを重ねる仕草に着想を得たこのコレクションは、重なり合うエッジのリズミカルな表現と、自然な触感を与える粘土の素材感が特徴的です。また、今回の家具では、木が最も多く使われている素材の一つです。
- **Very Wood (ヴェリー・ウッド) / 「Weekend (ウィークエンド)」** ホール 5 | スタンド D11-E12
本質的で詩的なデザインのチェアでその地位を確立し、Neri&Hu がデザインした Weekend シリーズを発表、Saturday と Sunday の 2 つのソリューションで構成されており、アッシュ材のフレーム、凹型の背もたれのシート、無垢材の彫刻が施されたベースが共通しています。Saturday は斜めに浅くカットされた背もたれを提案し、Sunday は幅が広くすばまった背もたれを提案しています。
- **Pedrali (ペドラーリ) / 「Anemos (アネモス)」** ホール 6 | スタンド A23-B24
Pio e Tito Toso (ピオ & テイト・トーズ) がデザインしたテーブル Anemos は、シンプルな建築的なフォルムで、セメントの素材感を高め、新たな表現力を与えています。ベースは、2 枚の薄いセメントの殻を分離して天板に固定することで形成されています。その結果、風によって彫刻されたようなテーブルが生まれました。光学的に軽く、安定感があり、表面はセメントや粘土のような色合いのマットな仕上がりになっています。

環境への配慮は、Km0(キロメトロ・ゼロ = 地産地消)、あるいはほぼ 0km からの素材の再発見にもつながります。企業やデザイナーは、その土地に関連する原材料を探し求め、古くからの伝統的な製造技術にもアプローチしています。こうして、気取らず、自国の文化を伝える家具が数多く登場し、職人技やハンドメイドの味わいを感じさせるオブジェも数多く存在するようになりました。

- **Nikari(ニカリ) / 「Detalji」ホール 2 | スタンド E16-E18**
Jenni Roininen (イェンニ・ロイニネン) デザインの Detalji (detail のフィンランド語) ベンチは、素材がすべて天然木で、木材と紙糸を使用した Ritva Puotila (リトバ・プオティラ) デザインの「Woodpecker (ウッドペッカー)」を使用。張り地は合成繊維を使用せず、バイオフィリア (生物愛護) の感覚を高めるために、スプリンググリーンのタッチで仕上げられています。
- **Verdi(ヴェルディ) / 「Textile Falls」ホール 4 | スタンド H05**
コロンビアの織物工房である Verdi は、この国の伝統的で持続可能なクラフトマンシップを紹介します。Textile Falls コレクションは、天然繊維と金属糸を織り込んだテクスチャーで、色、光、質感が一体となり、幸福感を演出します。イチジク、バナナ、シルク、アルパカ、ヤレ、クマレの繊維を銅やスチールの糸で巧みに織り込み、未処理パネルに自然光の効果をもたらしています。
- **Alonpi(アロンピ) / plaid e cuscini (プレード&クッシーニ) ホール 3 | スタンド M25**
ピエラ産カシミヤの洗練された魅力を讃え、革新と伝統的な職人技を融合させた、すべてイタリア製のプレードとクッションのコレクションを発表します。
- **Battilossi(バッティロッシ) / 「Eclectica(エクレティカ)」ホール 3 | スタンド M23**
Battilossi のカーペットは、上質な糸と色への情熱が特徴で、今回のサローネでは、イタリアでデザインされパキスタンでハンドメイドされたガズニ産ウール 100% の Eclectica コレクションでデビューします。表面の均一性とウールの丁寧な手染めにより、人工的な表面からインスピレーションを得た抽象的で有機的なパターンが強調され、イメージを変え、物語を伝える糸の深い能力が引き出されています。
- **The House of Lyria(ザ・ハウス・オブ・リリア) ホール 4 | スタンド F06**
ウール、リネン、コットンなどの天然繊維と、コーヒー、紅茶、灰などのオーガニック原料から得られる特別な色を使用した、トスカーナ、プラトーのテキスタイルにおける伝統と職人技から生まれた Federico Paziienza (フェデリーカ・パツィエンツァ) デザインのソファとアームチェアを発表します。
- **Woodnotes(ウッドノーツ) / 「Minore(ミノーレ)」ホール 2 | スタンド E16-E18**
フィンランドの荒々しい自然から純粋な原材料を選び、職人技と最先端技術をミックスして加工し、世界で初めて紙糸を現代的に繊維産業に活用した企業の Woodnotes は、Hanna Korvela (ハンナ・コルヴェラ) のデザインによる手織りカーペット、Minore を発表。

バージンウールとペーパーヤーンを使用し、前者はカーペットにボディとリズムを与え、後者は温かさと柔らかさを与えます。色調はアースカラーで、羊の毛の自然なニュアンスを生かし、化学染料で染めていないのが特徴です。

もちろん、**ガラス**や**金属**を使用した作品も登場。風通しの良い、ほんのり色づいたデザインの新しい透明なデザインは、軽さと空間への欲求に応えてくれます。

- **Luxence - Luxury Living (ルクセンス - ラグジュアリーリビング) / 「Luxence Gem」** ホール 7 | **スタンド C23-E20**
 コーヒーテーブル **Luxence Gem** は、細長い金属構造と深みのあるブロンズガラスの天板を対比させ、素材の透明感と光沢のある仕上げが織り成す、天然石を思わせる仕上がりとなっています。
- **De Castelli (デ・カステッリ) / 「Xilo (シロ)」** ホール 4 | **スタンド C01-C03**
studio Delineo (スタジオ・デリネオ) によるデザインのコーヒーテーブル **Xilo** は、アール・ヌーヴォーの洗練されたしなやかな美学にインスピレーションを受け、同社のクラフトマンシップ技術を高めたまさに金属の彫刻です。両端が丸く、長さの異なる真鍮板を曲げ、凹凸と並べて構成し、リズミックなムーブメントを作り出しています。各要素には特徴的なマークのパターンがあり、そのマークは繊細なグラデーションに溶け込み、金属の磨き上げられた表面と対照をなしています。
- **Desalto (デサルト) / 「HEA (ヘア)」** ホール 5 | **スタンド C15**
Francesco Rota (フランチェスコ・ロータ) デザインのテーブル **HEA** も金属製で、構造的なダブル T プロファイル、真鍮で覆われたスチールフレームの脚、スチールのトップサポートによって定義されています。

【美しく快適なカーブ】

有機性は素材だけでなく、形にも表れています。ソフトでしなやかなライン、カーブや丸みを帯びた角が、家具やオブジェのすべてのピースを支配しています。調和と快適さへの欲求と1960年代のインスピレーションの間でバランスをとっています。

- **Baxter (バクスター) / 「Juliette (ジュリエット)」** ホール 5 | **スタンド H01-H11 L08-L10**
Christophe Delcourt (クリストフ・デルクール) がデザインした新しいモジュラーソファ **Juliette** は、ソフトで丸みがあり、複数の構成で快適さとカジュアルさを増幅させ、イヴ・サンローランを魅了したマジョレル・ブルーを纏っています。
- **District Eight (ディストリクト・エイト) / 「Joss (ジョス)」** ホール 10 | **スタンド B05**
 調和と静寂を宣言する形は、ベトナムのブランド **District Eight** のために **Toan Nguyen (トアン・グエン)** がデザインしたソファ **Joss** にも属し、そのデザイン物語は、職人技の技術と地元のインスピレーションを物語っています。無垢材のベースとシートの曲線で定

義された一枚板のシート **Joss** は、東南アジア建築の伝統的な屋根へのオマージュを表しています。

- **LaCividina (ラチヴィディーナ) / 「Dorothea」 (ドロテア) | ホール 2 | スタンド L21**
Andrea Steidl (アンドレア・スタイドル) とのコラボレーションにより誕生した、従来の布張りの構成パターンを打ち破るシーティングシステム、**Lithops** は、自然のインスピレーションと高度なモジュール性を主役とし、同名の多肉植物からインスピレーションを得た、“リビングストーン” と呼べるソファです。平面的で非対称なシートは、彫刻的な背もたれに包まれ、システムの支持要素として機能し、柔らかなラインと明確なボリュームによる心地よい流動性を生み出しています。自然界と同じように、個々の要素が自然に集まり、それぞれの曲線の接線に従って、空間の次元を最大限に生かしたコロニーへと発展していきます。
- **Flexform (フレックスフォルム) / 「Perry UP」 | ホール 5 | スタンド E05-E11 F02-F08; C23**
Antonio Citterio (アントニオ・チッテリオ) デザインのソファ **Perry UP** は、グースダウンをふんだんに使ったソフトなボリューム、均整のとれたプロポーション、洗練されたテーラリングのディテールも特徴です。
- **Living Divani (リビング・ディヴァーニ) / 「Ark (アルク)」 | ホール 7 | スタンド C11-D16**
David Lopez Quincoces (ダヴィッド・ロペス・キンコセス) デザインのアームチェア、**Ark** も、曲線的で調和のとれたラインを描いています。木という生きた自然素材の美しさを表現したこの椅子は、シンプルで純粋なラインによって定義されています。木材を加工して曲線を描くことで、ダイナミックでありながら調和のとれたフォルムを生み出し、金属製のロッドレグとのコントラストを際立たせています。
- **Frag (フラッグ) / 「Syren (シリアン)」 | ホール 4 | スタンド 11**
アームチェア **Syren** は、ソフトで XL なデザインです。座り心地の良いシートは、非常にボリュームのある1つの構造的なクッションで構成され、強い美的存在感を放っています。一方、背もたれとアームレストは、体にフィットするソフトな可動式クッションとして設計され、トータルな快適さを提供します。
- **Liu Jo Living (リユー・ジョー・リビング) / 「Coquille (コンキリエ)」 | ホール 18 | スタンド C18**
曲線的な海の形の代表格である貝殻にインスピレーションを得て、**Simone Cagnazzo** (シモーネ・カニャッツォ) がデザインした製品ライン、「**Coquille**」を発表。ソファ、アームチェア、デイベッド、プフは、バランスのとれた安定感を約束します。
- **MD House (MD ハウス) / 「Bombosoft (ボンボソフト)」 | ホール 2 | スタンド D25-E20**
BlueZone (ブルーゾーン) によるデザインの、ソフトで居心地の良いヘッドボードを備えた布張りベッドで、ゆったりとした布張りと柔らかい背もたれが、リラックスをイメージさせます。

- **Carpet Edition (カーペット・エディション) / 「Flux (フラックス)」** ホール 6 | スタンド E31
STORMO スタジオと実現した、流動的でしなやかカーペットコレクション **Flux** を提案。抽象的な形は、その動きによって、「流れ」という概念の行き着く先を探求します。3つの異なるシルエットが、ソフトで決定的なウールラグという形で、時間、空間、光の概念を1つの作品に集約しています。

【アウトドア:新しいライフスタイルの提案】

家具が自然とシームレスな関係を築き、自然を尊重すると同時に、その素材感やニュアンス、示唆を呼び起こす場所は、確かにアウトドアです。この 10 年間で、「アウトドア」は新しい生活空間となり、家の中にあったものが庭やテラス、都会のバルコニーで新しい命を見出したように、その存在感を増しています。それはもはや恵まれた環境の問題ではなく、真の生き方の問題なのです。「よく生きる」ことを追求し続ける中で、アウトドアは、日常生活のあらゆる場面で地球と調和したより穏やかな生き方と結びついているため、幸福の新たな次元を表しています。そして、家具産業が技術革新、素材研究、生産技術の洗練という点で、最も力を入れているのがこの分野なのです。

- **Roda (ローダ) / 「Eolie (エオリエ)」** ホール 4 | スタンド D02-D04
Gordon Guillaumier (ゴードン・ギヨミエ) デザインの新コレクション **Eolie (エオリア諸島)** は、サンラウンジャー、小さなテーブル、キャノピー、ガゼボを組み合わせた別世界のようなもので、幅広の木製スラットが家具をつなぎ合わせて、まさに快適な島を形成しています。屋外の隠れ家を作るために、典型的なカバナを思わせるガゼボを設置し、サンラウンジャーを並べて置くことで、居心地の良い空間を演出しています。
- **ames (アメス) / 「Coco Seating (ココ・シーティング)」** ホール 10 | スタンド D09
MUT design による初の布張りシーティングコレクション **Coco Seating** は、インドアとアウトドア両用で、ラテン文化圏で「comecocos (コメコス)」と呼ばれる折り紙遊びからインスピレーションを得ています。モジュールのアウトラインはシンプルで幾何学的、シャープなファブリックの継ぎ目は紙のオブジェの薄いエッジを想起させ、カラーファブリックは鮮やかな黄色とオレンジ色を放ちます。コロンビアでは、伝統としてハンモックに使われている生地、デザイナーは、奥行きと遠近感を生み出し、どの角度から見ても模様やニュアンスが変化して見えるよう、この生地を選びました。
- **Ethimo (エティモ) / 「Allaperto Bistrò (アッラペルト・ビストロ)」** ホール 2 | スタンド L22-L24
Matteo Thun (マッテオ・トゥーン) と **Antonio Rodriguez (アントニオ・ロドリゲス)** が、フランスのカフェの温かい雰囲気インスパイアされ、ダイニングエリアやオープンエアの会話スペースを演出するためにデザインしたのが、この **Allaperto Bistrò (屋外ビストロ)** です。このアームチェアは、生き生きとしたパリジェンヌの提案と、シンプルで機能的、かつ洗練されたデザインが融合しており、座面のチーク材の手編みの紐が魅力を際立たせています。

- **Expormim (エクスボルミン) / 「Talo (ターロ)」** ホール 2 | スタンド F21-F25
Altherr Désile Park (アルテール・デジール・パーク) がデザインしたテーブルセットは、岩の多い風景からインスピレーションを得て、自然の姿ように完璧な非対称性を持っています。テーブルはエナメル加工されたアルミニウムとフロストガラスでできており、持続可能な素材であることに加え、高度な耐久性を備えています。
- **Knoll (ノル)** ホール 4 | スタンド D11-E12
Piero Lissoni (ピエロ・リッソーニ) によるアウトドア・コレクションは、落ち着いたエレガントな美学を反映し、屋外の次元を再認識しました。このコレクションの製品を統合する要素は、デザインの直線性と本質性、そしてモダニズムスタイルであり、シートの大らかなクッションと布張りは、絶対的なレベルの快適さとインフォーマルなくつろぎを保証します。
- **Roche Bobois (ロッシュ・ボボア) / 「BomBom」** ホール 5 | スタンド C24
Joana Vasconcelos (ジョアナ・バスコンセロス) は、彼女の遊び心と楽観的なアプローチを反映した **BomBom** コレクションで屋外デビューを果たします。ソファ、ラグ、クッションは、流れるような有機的なフォルムで、リスボンの古い家のようなパステルカラーを基調としています。典型的な“屋内”インテリアであるカーペットが、屋外にも進出します。
- **Calma (カルマ) / 「Cuina (クイーナ)」** ホール 14 | スタンド D32
スペインのアウトドアメーカー **Calma** 社は、エンポルダ地方の伝統的なキッチンタイルにヒントを得て **RUN** がデザインした **Cuina** を発表します。手織りで、屋外でも丈夫なこのカーペットは、100%リサイクルされたポリプロピレンボトルを使用した **soumak** (スーマック) です。
- **Diabla (ディアブラ) / 「Cacao (カカオ)」** ホール 2 | スタンド D19-D21
多機能という言葉は、アウトドアでもよく使われる言葉ですが、**Diabla** はそれを楽しく解釈しています。**Cacao** は、“水に浮くデッキチェア”で、浮遊感があり、サーモラッカー仕上げのアルミニウム構造により、デイベッドにもなります。**Odosdesign** のデザインにより、簡単に膨らませたり縮めたりすることができ、あらゆる屋外スペースに適応し、屋外の楽しさを満喫することができます。
- **Gandiablasco (ガンディアブラスコ) / 「Lademadera (ラデマデーラ)」** ホール 2 | スタンド D19-D21
Francesco Meda (フランチェスコ・メダ) と **David Quincoces (デヴィッド・キンコセス)** デザインのソファ、ラウンジチェア、コーヒーテーブルのコレクション **Lademadera** は、耐久性と耐性の高い天然チークとサーモラッカー仕上げのアルミニウムを使用、100%リサイクル可能です。チーク材には、FSC (森林管理協議会) および V-Legal (インドネシア合法木材) の認証を受けた原材料を意味する **Otazen** シールが貼られているものを使用しています。さらに、持続可能な生産サイクルを確保するために、厳格な森林再生手順に従って管理さ

れたプランテーションからチーク材を選び、生産プロセスの多くの工程を手作業で行っています。

- **Pratic (プラティック) / 「Carrera (カレラ)」** ホール 2 | スタンド G19
最新のパーゴラ、Carrera は、屋外を屋内に変身させ、1年 365 日楽しむことができる宝石のような存在です。固定式と可動式の羽根を交互に配置した初の屋外用スクリーンで、夜明けから夕暮れまでの太陽の自然な動きに合わせて、互いに完璧に重なり合いながら上昇させることができます。

【リビングオフィス】

アイデンティティを求める場所、それは今年のサローネが提案する様々なオフィスです。そのため、パブリックスペースやワークスペースのデザインには、ワークライフバランスのニーズに応える革新性、柔軟性、適応性が求められています。家具やアクセサリ、素材の面では、モジュール式の椅子やデスク、家庭用家具と簡単に組み合わせられるダイナミックで遊び心のあるカラー、ハイテク素材、カスタマイズ可能な照明オプション、モバイル充電ステーションなどが採用されています。

- **Wittmann (ヴィットマン) / 「Adagio (アダージョ)」** ホール 5 | スタンド C09
デザインスタジオ NOTE にとって、ワークプレイスはオフィスというよりもリビングルームのような性格を持つべきものなため、Adagio をデザインするにあたって、家具の効率性よりも、コミュニケーションとウェルビーイングの次元に焦点を当てました。音楽の世界で「アダージョ」という言葉は、曲がゆったりと演奏されることを意味します。このような静寂の感覚から、デザイナーは、流動性、リラックス、内省を表現する一連のチェアとオットマンをデザインしました。
- **Arper (アルペール) / 「Ralik (ラリク)」** ホール 4 | スタンド D06-C09
岩崎一郎デザインによる Ralik はモジュラー式ソファシステムで、単体で使うことも、チェア、オットマン、ベンチを組み合わせることもでき、さまざまな形やサイズのソリューションを無限に生み出します。また、テーブルと組み合わせることで、作業やくつろぎのためのスペースを確保することができます。エレガントでカジュアルな Ralik は、ホーム、オフィス、ワークプレイスなど、場所を問わない美しさの流動性を讃えています。持ち運びできそうなほどコンパクトで、自宅のミニオフィスやプライベートなオフィススペースに最適です。
- **Bla Station (ブラ・ステーション) / 「BOB Solo (ボブ・ソロ)」** ホール 4 | スタンド L05
小さいながらも頑丈な車輪を装備しており、必要に応じて部屋の中を移動できるオフィスステーション。高い布張りのシートと背もたれ、調節可能なアームレスト、完璧なラップトップテーブル、小さな棚、コートラック、カップホルダー、スマートフォンをワイヤレスで充電できる取り外し可能なパワーバンク、照明、長方形の折りたたみテーブルが、置かれた環境を問わず、この作品をプライベートスペースに変えてくれます。

- **Fantoni(ファントーニ) / 「Panorama(パノラマ)」 ホール 2 | スタンド F11-G12**
ワークスペースの新しい発想に挑戦し、UNStudio がデザインした **Panorama** コレクションを発表します。第 1 のスペース(家庭)と第 2 のスペース(オフィス)が混ざり合い、“第 3 のスペース”となる「中間領域、ハイブリッドゾーン」が、がますます重要な位置を占め、心地よく柔軟な場所を作り出します。**Panorama** は、人間を中心としたランドスケープであり、プライバシーを守るために高さを変えたパーティションシステムであると同時に、快適さとコミュニティの感覚を育むソフトシーティングシステムであり、また、快適で統合されたワークスペースを実現する固定または一時的なワークステーションのセットです。
- **Caimi(カイミ) / 「Fiber 12」 ホール 2 | スタンド B21-C20**
ECONYL®ナイロンの再生糸を使用し、全く新しい技術で作られた初の吸音生地 **Fiber 12** を発表。再生ナイロンとは、リサイクル工程で失われがちな特性や品質、機能性を、元の状態に戻す技術的な工程を経て製造されたものです。**Fiber 12** は、耐久性がありながら柔らかく軽いため、カーテンを作ったり、家具の様々な要素をカバーしたりするのに適しています。さらに、この素材はトレースすることができます。製品のライフサイクルが終わると、製品は会社に戻され、再生されて再び流通することになります。こうして、生産、回収、再生のプロセスを無限に繰り返すことができるのです。

【クワイエット・ラグジュアリー】

2023 年ミラノサローネの更なるキーワードは、「ラグジュアリー」です。シンプルさの追求、知覚の強さの向上、記憶と革新の織り成す関係、美的・情緒的価値を支持する「緑の倫理」へのアプローチ、この意味でラグジュアリーは、結局は態度や心の状態を示すものです。手に入れたり、所有したり、飾ったりする必要のあるものに漠然と目を向けるのではなく、私たちに驚かせ、ゆっくりとした時間の楽しさや、日常の習慣となるシンプルな行動を再発見させることができるような、開かれた姿勢を保つことです。

この意味で、住まいは、時間、快適さ、エレガンスが支配する 5 つ星リゾートのように生まれ変わる、あるいは住みたいと思うようになるのです。リッチで温かく、ソフトで貴重な仕上げやテクスチャーが、多くの家具の美学を自然な魅力に変え、決して仰々しくなく、居心地の良い、パーソナルな、そして何より幸せなものに変えてくれるのです。そのアプローチは、個々のピースをデザインするのではなく、インテリア装飾の偉大な伝統を受け継ぎながら、全体の雰囲気作りに気を配るというものです。このような観点から、細部にまでこだわりを持ち、素材ひとつひとつを選び抜き、全体的に洗練された雰囲気に仕上げる美学を持つブランドは、まさにうってつけの存在といえるでしょう。

- **Maxalto(マクサルト) / 「Arbiter(アルビテル)」 ホール 2 | スタンド C11-D12**
Maxalto のそれぞれの作品は、家庭的というよりも概念的な環境を構築しており、何も偶然に任せたり、仰々しさに左右されることはなく、正確な意味をもっています。**Antonio Citterio(アントニオ・チッテリオ)** の **Arbiter** は、大きな環境に適した超大型のモジュラー

チェアのシステムで、厳格でほとんど原型をとどめないラインのスタイル的な本質によって相殺され、素材は、洗練されたファブリックを採用し、ウールのような質感で、重厚感を演出しています。

- **Chelini (ケリーニ) / 「Chanel (シャネル)」** ホール 1 | スタンド H06
エレガントで快適なクラシックスタイルを体現する、ゆったりとした座面のシャネルアームチェアを展示し、木彫りの装飾と豪華なベルベット生地で装飾されています。
- **Molteni&C (モルテーニ&C) / 「Mateo (マテオ)」** ホール 4 | スタンド A03-A07 B02-B06
Molteni&C のダイニングコンセプトを再構築し、新しいテーブルを提案する Vincent Van Duysen (ヴィンセント・ヴァン・デュイセン) にとって、ホスピタリティこそが真の贅沢です。Mateo は、中央の台座が円筒形と円錐形で、底面は縦に 2 つに溝が掘られています。マ Mateo は、円筒形と円錐形の台座が縦に 2 つ並んだ形をしており、丸型では、中央に回転するトレイ「レイジーシーズン」が追加され、食事をする人のために、和やかな状況を作り出すことができます。
- **Gessi (ジェッシ)** ホール 4 | スタンド G06-F09
一方、Gessi にとってラグジュアリーとは、「オートカルチャー」と同義語です。つまり、素材、形、技術の面で最大限の実験を行い、総合的な健康と美しさという新しい文化的価値を創造するための表現なのです。
- **Lema (レマ) / 「VentiTre (ヴェンティトレ)」** ホール 7 | スタンド B12-B21 C20-C24
VentiTre は、カスタマイズ可能なモジュール式ウォークインクローゼットシステムで、環境への影響も考慮したオーダーメイドプロジェクトです。また、100%リサイクルされ厳選された木材を使用したエコロジーパネルで作られており、各コンポーネントを適切に廃棄するために簡単に分解することができます。
- **Tacchini (タッキニー)** / ホール 4 | スタンド D01-D04
Tacchini にとって、遺産の価値とは、現代のラグジュアリーを定義するフィルルージュで、歴史的な名作の復刻と、現代の才能の向上を両立させる研究を行っています。建築家 Tobia Scarpa (トビア・スカルパ) による 1980 年代の椅子、Sempronina (センプローニア) と 1970 年代の Dialogo (ダイアロゴ)、そして Lorenzo Bini (ロレンツォ・ビニ) がデザインしたテーブルやコンソール Orpheus (オルフェウス) がその主役です。
- **Rugiano (ルジャーノ) / 「Fandango (ファンダゴ)」** ホール 3 | スタンド B12-C16-C20
ベッド、Fandango は、その入念に研究されたディテール、柔らかく繊細で包み込むようなライン、テーラード仕上げ、豊富なファブリックが生み出すひだを強調するブロンズディテールで、ラグジュアリー概念を表現しています。
- **Turri (トゥッリ) / 「Ratio (ラシオ)」** ホール 1 | スタンド A07-B08

Turri はラグジュアリーという意味合いでも、デザイナーToan Nguyen(トアン・グエン)とともに、家具の機能性と、素材の官能性から生まれる感情的なインパクトのバランスを追求しました。このように Ratio は、革の編み込み構造によって、懐古趣味や現在のライフスタイルや快適性に妥協することなく、現代のエレガンスを自由に表現するソファなのです。

- **RS Barcelona (RS バルセロナ) / 「Track Shuffleboard (トラック・シャッフルボード)」** ホール 10 | スタンド C06

RS Barcelona にとって、ラグジュアリーとは、単に美的な概念にとどまらないものです。それは、人生を情熱的に解釈し、生き、一瞬一瞬を楽しむ方法です。それは、日々の気まぐれを正当化することなく受け入れることができる可能性です。そして、カジュアル・ラグジュアリーは、デザインを解釈する方法でもあります。今回のサローネでは、**Rafael Rodriguez (ラファエル・ロドリゲス)** がデザインした新しい Track Shuffleboard を発表し、空間に遊び心のある個性を加えています。競技場とスコアのラインは、最もミニマルなグラフィックデザインを意識し、ガラスストップのおかげで、ハイテーブルとしても使用することができます。ガラスとアペリティフがあれば、また一味違ったものになるでしょう。

【クロスデザイン】

横断性は、今もなお、多くのブランドが最もよく追い求め通る道のひとつです。

- **Frigerio (フリジェリオ) / 「Unique (ユニーク) ホール 5 | スタンド G05**

例えば、**Gabriele and Oscar Buratti (ガブリエーレ&オスカー・ブラッティ)** がデザインした Unique は、壁際でも、部屋の真ん中でも、単体でも、横並びでも、そして背中合わせでも、組み合わせられるブックシェルフです。

ポジションだけでなく使い方も流動的に：

- **Porro (ポッロ) / 「Romby (ロンビー)」** ホール 7 | スタンド D15; E18

2019 年に **GamFratesi (ガムフラテージ)** がデザインした同名のチェアの変形から生まれた新しい Romby アームチェアを発表し、ホームオフィスやコントラクト分野で新しい可能性を切り開きます。布張りのシェルの形状が広がり、上昇してアームレストを作り、オリジナルモデルの軽さと本質的な品質を損なうことなく、柔らかさと自然さを感じさせます。中央の木製の脚は、吊り下げられた上部のボリュームが、居心地の良さと機能性の視覚効果を生み出しています。

- **Gemla (ジェムラ) / 「Humble (ハンプル)」** ホール 4 | スタンド L07

Gemla はオフィスやホテル、自宅のラウンジスペースにも最適な家具を提供。**Pierre Sindre (ピエール・シンドル)** によるスリムで軽やかなデザインの曲げ木ソファ Humble は、ゆったりとした座り心地で、さまざまなシーンに完璧に対応できます。

- MDF/「Rock Table(ロック・テーブル)」ホール 2 | スタンド G11-H14
Jean Marie Massaud (ジャン・マリー・マッソー)の Rock Table を提案します。このテーブルは、中央の円錐形のしっかりとしたベースと細長い天板を持ち、角が丸く、テーブルを囲む人同士が和やかな時間を過ごせるような交流や対話を促進します。
- Kristalia (クリスタリア)/「Elephantino (エレファンティーノ)」ホール 2 | スタンド D25-E20
Eva Paster (エヴァ・パスター)と Michael Geldmacher (ミヒャエル・ゲルトマッハー)が手がけたチェア Elephantino は、初めて再生プラスチックとリサイクル可能なプラスチックを使用し、屋外での使用にも適しています。使用したプラスチックの特殊な組成により、鮮やかでありながら落ち着いたトーンの美しい色合いが揃っています。

【MASSIMALISMO CONTEMPORANEO 現代版マキシマリズム】

レス・イズ・モア(少ない方が豊かである)という合理主義的文化に疲れが見える中、デザインのプロジェクトに於いて、装飾を重要な瞬間として捉えるマキシマリズムが台頭してきています。

- Visionnaire (ヴィジォネア)/「Blanche (ブランシュ)」ホール 5 | スタンド L11;M06
Visionnaire は、この美的考察を明確に解釈し、その演劇的要素を、テーラーメイド、超ラグジュアリー、先見の明を取り入れて変調させながら表現しています。コレクションは多岐にわたりますが、中でも Studiopepe (ストゥディオ・ペペ)がデザインした、鏡 Blanche は、現代版マキシマリズムの流れが引き起こす不思議な感覚を、うまく表現しています。鏡は、表面に女性や蛇などの象徴的な像が手彫りされ、薄い革のフリンジのカーテンに覆われています。鏡に映った人物を見るためには、カーテンを撫でるように動かす必要があり、これは優しい行為であると同時に、視覚と触覚という二つの感覚をつかう官能的な行為でもあるのです。
- Bosa (ボーズ) /「Surus (スルス)」ホール 2 | スタンド H21
Alessandra Baldereschi (アレッサンドラ・バルデレスキ)による、象「Surus (スルス)」のように、より表情豊かで重層的なデザインにより、この貴重な動物が絶滅の危機に瀕しているという、複雑なストーリーを語ることもできます。全てがハンドメイドのこの陶器のオブジェは、立体的なテクスチャー、鮮やかな釉薬、貴金属で装飾されています。
- Jumbo Collection (ジャンボ・コレクション) /「Nénu Phar (ネヌファー)」ホール1 | スタンド L05 ; M07
Jumbo Collection の折衷的な装飾性は、サイドボード Nénu Phar に完璧に表現されています。アール・デコ様式の典型である幾何学的なフォルムは、軽やかで明るい色調により、軽快な印象となっています。外板には睡蓮の花が描かれ、竹の形の真鍮製ハンドルとともに、東洋的装飾のムードを加えています。

- **Versace Home (ヴェルサーチェ・ホーム) / 「Discovery (ディスカヴァリー)」** ホール 7 | スタンド C23 ; E20
現代版マキシマリズムをさりげなく表現したソファ **Discovery** では、ヘリンボーンパターンを再現し、ブランドの「V」を現代的に視覚化しました。背面のクッションは、リクライニング可能な背もたれと、快適なクッションという二つの顔を持ちます。このマキシマリズムの美学はインテリアにとどまらず、エクステリアにも浸透し始めています。
- **Roberto Cavalli Home Interiors (ロベルト・カヴァッリ・ホーム・インテリアズ) / 「Dahlak (ダラク)」** ホール 3 | スタンド A11 ; B01
ゆったりとして快適な座り心地のモジュール式アウトドアソファ **Dahlak** は、ブランドの特徴柄ーキリン、ゼブラ、ジャガー柄をブラックとホワイトのコンビネーションで提案しました。

【GEOMETRIE ANNI '70 70年代のジオメトリー】

過去はどうでしょう？ノスタルジックな視線ではなく、むしろ好奇心旺盛で現代的な着眼点で、レトロなオレンジ、ブラウン、グリーン、シクラメンなどの色のニュアンス、ブークレ素材などを使いながら、1970年代の活気を再解釈しています。

- **Gian Franco Ferrè Home (ジャン・フランコ・フェレ・ホーム) / 「Fulham (フルハム)」** ホール 3 | スタンド A19 ; B14
Fulham は、有機的な丸みを帯びたフォルムと調和のとれたプロポーションで、巢のように包み込む回転式アームチェア。白のブークレのソフトな張地も、ヴィンテージを意識した現代的なスタイルを、より魅力的に表現しています。
- **Zanotta (ザノッタ) / 「Galeotta(ガレオッタ)」** ホール 2 | スタンド B14 ; C15
1968年にJonathan De Pas(ジョナサン・デ・パス)、Donato D'Urbino(ドナート・ドウルビーノ)、Paolo Lomazzi(パオロ・ロマッツィ)によってデザインされ、今回Zanottaによって復刻されたGaleottaは、当初から革新的で破壊的なプロジェクトであり、従来のアームチェア概念を解体し、家における新たな座り方や暮らし方を導入しました。折り畳み式のクッションが付いたアームチェアは伸縮し、開くとシェーズ・ロングやメリディエンスになります。密度の異なるポリウレタンフォーム製で、支持構造も内部のメカニズムも持たない三つの不規則な幾何学的ブロックできているため、様々な形の構成が可能です。
- **Lago (ラーゴ) / 「Hero (ヒーロー)」** ホール 4 | スタンド F08 ; E11
Mauro Lipparini(マウロ・リッパリーニ)がデザインしたソファHeroもまた、当時の表現力豊かな身体からインスピレーションを受けています。アームレスト、背もたれ部分が、関節や突起をいかして座面を包み込むような、先鋭的なジオメトリーが特徴です。巧みなキルティングによる洗練されたテーラーメイドの張地は、表面にリズムと動きを与え、光と影の遊びによってダイナミックに仕上げられています。

- **Linteloo (リンテルー) / 「Gilbert (ギルバート)」 (ホール 7 | スタンド G19)**
Sebastian Herkner (セバスチャン・ヘルクナー)が手掛けたベッド **Gilbert** も、シンプルな形状のブロックが丁寧に組み合わせられた、キュビズム的とも言える幾何学的な形で、テトリスを彷彿とさせるものです。そのブロックの分離部分が目に見えるようにデザインされていることはこのベッドのデザインの強い特徴であり、また二つのヘッドボードそのものが、装飾の要素となっています。
- **Jannelli&Volpi (ヤンネッリ・エ・ヴォルピ) / 「Altagamma Tissé (アルタガンマ・ティセ)」**
ホール 4 | スタンド E06 ; E08
またこの時代の、柄や図形、大小の繰り返しを基本とした壁紙も回帰しています。**Altagamma Tissé** は、この提案を更にレベルアップさせました。このコレクションは、エンボス加工、革新的生産技術に関する研究リサーチと、素材と色の組み合わせの入念な研究によって生まれました。
- **GAN (ガン) / 「Giro (ヒーロ)」** ホール 2 | スタンド D19 ; D21
1970 年代は、オプティカル・アートの発展期でもあり、**MUT design (ムット・デザイン)**がデザインしたカーペット **Giro** も、そこからインスピレーションを受けています。このコレクションは、ハンドタフト製法を用い、ヴァージンウールに驚くほど精密なグラフィックを表現した 2 型のカーペットです。カーペットは、数学的な曲線の連続を基調とし、その形状のわずかな変化により、チューブが自身に巻きついているような目の錯覚を起こします。
- **Nanimarquina (ナニマルキーナ) / 「doblecara (ドブレカラ)」** ホール 2 | スタンド D16
Ronan Bouroullec (ロナン・ブルレック)がデザインした **doblecara** は、ポジとネガの色づかいの細かい断続的な線が、徐々にぼやけたドットとなる柄のカーペットです。この視覚的遊びは、カーペットを裏返しにすると、A 面では直線的なデザインが強調され、B 面ではより繊細な雰囲気となります。

【レッスン・フロム・ジャパン】

日本から学べるものとして、エコ・サステナビリティのコンセプトとの完全な一致があげられます。人間と自然のつながり、木のぬくもり、素材の繊細さ、革の貴重さ、形と機能のバランスのエleganceを強調します。機能性を支点としたアプローチですが、それは感覚的で繊細かつ快適な実用性であり、クリーンでソフトなラインに身を包み、天然素材によって形作られています。

- **Ritzwell (リッツウェル) / 「Mercury Lounge Chair (マーキュリー・ラウンジチェア)」** ホール 5 | スタンド D10
Ritzwell の 2023 年の提案に共通するのは、テーパーのダイナミックなラインの無駄のないデザインであり、身体に合わせて形作られ、リラクゼーションと幸福の温かい感

覚を与えてくれます。宮本晋作の新作 **Mercury Lounge Chair** は、背脚と背もたれの間で作られた空間を主役とし、新たな座面の解釈を提案しています。

- **Maruni (マルニ木工) / 「Hiroshima (ヒロシマ)」** ホール 4 | スタンド C06 ;C08
 エッセンシャルの巨匠、**深澤直人**がデザインした **Hiroshima** コレクションは、チェア、テーブル、ソファ、アームチェアなどから構成されています。それに共通するのは、木の持つ本物の純粹さを強調するかのような繊細なラインと厳格なフォルム、そして伝統的な製法と精密で革新的な工業プロセスを融合させたものづくりです。
- **Daft about Draft (ダフト・アバウト・ドラフト) / 「ZA-01」** ホール 6 | スタンド C23
 All happy by design (デザインで皆を幸せに)の哲学に基づくブランド **Daft about Draft** の創設者で、建築家の**山下泰樹**は、その家具に、幸福感と自由な精神を加えています。自らの創造性を、ファッション分野における表現の自由と陽気さに例え、伝統やステレオタイプに挑戦しながら、抑えきれないほどの喜びを家具を通じて表現しています。ソファ「ZA-01」では、座面のボタン留めやレザー製クッションベルトなど、緻密で丁寧なディテールを作り上げました。座面を支えるフレームは、滑らかな曲線美を描き、洗練され、軽く伸びやかなフォルムを実現しています。

【 VALORE NARRATIVO DEGLI OGGETTI モノの物語的価値 】

見本市に見られる様々な道筋の先には、モノの物語的価値の回復があることが明らかです。それらは文化や社会を語り、そして批判のプラットフォームにさえなっています。

- **A lot of Brasil (ア・ロット・オブ・ブラジル) / 「Segno (セーニョ)」** ホール 4 | スタンド E5
Pedro Franco (ペドロ・フランコ)がデザインした新作 **Segno** コレクションは、サンパウロ郊外に住む多数のピシャドール(ブラジルのグラフィティ・アーティスト)の一人、**Bruno Lourucras (ブルーノ・ルールクーラス)**と共同開発しました。インスピレーション源となったモチーフは、ブラジルの記号表現の進化です。ブラジルの原住民インディオが、死後の世界と交信するために彫った絵が、現在のピシャサオ(ブラジルの破壊的、攻撃的な落書きグラフィティ)に至り、それを通じてブラジルの貧しい人々が自分たちの存在を強調するようになりました。同コレクションのカーペット「**Pio (ピオ)**」には明確で正確な美学を備えた抗議文が描かれ、一方、チェア「**Ancestrale (アンセストラル)**」、**「Icons (アイコンズ)**」は、先祖をテーマにデザインされています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it